第十二回 明之会

平成二十二年十一月六日(土)三時始

於・喜多六平太記念能楽堂

東京都品川区上大崎四―六―九

☎〇三（三四九一）八八一三

仕舞　経正　加藤慎一朗

独吟　笠之段　梅若万佐晴

仕舞　実盛　梅若万三郎

狂言　秀句傘　山本東次郎

能　松風　加藤眞悟

第十二回 加藤眞悟 明之会

平成二十二年十一月六日(土)二時始
於・喜多六平太記念能楽堂

解説　三宅晶子

（二時二十分頃）

経正　仕舞

加藤慎一朗

地謡　中村政裕　加藤眞悟　梅若紀長　長谷川晴彦

つねまさ…平家物語を題材とした若い武者の能。青山という琵琶の名器を仏前に供え管絃講をしていると修羅道に落ちた経正が現れ、紋服袴姿で舞います。

笠之段　独吟

梅若万佐晴

かさのだん…芦刈の冒頭部、芦売りが節おもしろく謡いながら芦を売り、笠踊り見せる謡を一人で謡います。

実盛　仕舞

梅若万三郎

地謡　青木健一　伊藤嘉章　青木一郎　八田達弥

さねもり…平家物語を題材とした老武者実盛の最期の様子。白髪を黒く染め、錦の直垂を着て最後の戦の様を紋服袴姿で舞います。

秀句傘　狂言

シテ　大名　山本東次郎
アド　太郎冠者　山本泰太郎
アド　新参の者　山本則孝

休憩十分

松風　能

見留　シテ　松風　加藤眞悟
ツレ　村雨　梅若泰志
ワキ　旅僧　安田登
アイ　浦人　遠藤博義

笛　栗林祐輔
小鼓　幸信吾
大鼓　大倉慶乃助

後見　中村裕　梅若万佐晴

地謡　青木健一　梅若紀長　梅若久紀　古室伊藤嘉章　長谷川晴彦　知也　梅若万三郎　八田達弥

（終了予定五時十分頃）

主催　加藤眞悟 明之会

秀句傘（しゅうくがらかさ）

大名の命令で太郎冠者が傘の秀句（洒落など）が得意という新参者をつれてきますが、大名はその秀句が理解できずに怒りだします。太郎冠者から秀句の説明を受けると、今度はわけもわからずなんでも秀句と思い、やたらに感心して太刀・小袖などの持物を全部、新参者にやってしまいます。

松風（まつかぜ）

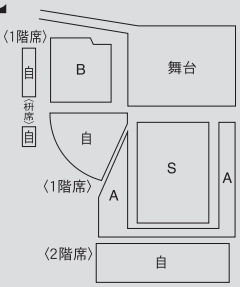
旅の僧が登場します。須磨の浦に着き松を見て、何のいわれかと思い浦に住む者（アイ）に尋ねると、松風と村雨、二人の汐汲み女の恋の話を聞きます。旅僧が哀れに思い塩屋に泊まって供養しようとしているところへ潮汲みの乙女達（シテ・ツレ）が潮汲み車を引きながら現れます。宿を頼むと一度は断られますが、塩屋に招かれ、「わくらわに問う人あらば須磨の浦に藻塩たれつつ侘ぶと答えよ」という僧の歌に二人は涙を流し始めます。不審に思って聞くと、二人は行平がこの地に流されていた三年間寵愛を受けていましたが、行平が都に帰った後も忘れられずに形見の烏帽子・狩衣を見るたびに思いが募ると訴えます。

やがて松風は形見の装束を身につけ、村雨の制止も聞かず目の前の松を行平に見立て狂乱して「中の舞」を舞います。「立ち別れ稲葉の山の峰に生ふる松とし聞かば今帰りこむ」と言っていたのにと「破の舞」を舞い続け、松に寄り添い行平との昔を懐かしみます。やがて、僧に回　を頼むと、夜も明けて姿も見えなくなってしまいました。

見留（みとめ）という小書（特殊演出）は、松風が舞いながら行平の衣を掛けていた松の前を勢い良く駆け抜けます。それから橋掛りまで行き、一の松で振り返り作り物の松を見て、謡の内に幕に　りワキがそれを見て留めます。

【入場料】

指定席S	七、〇〇〇円
指定席A	六、〇〇〇円
指定席B	五、〇〇〇円
自由席	四、〇〇〇円
学生自由席	二、〇〇〇円

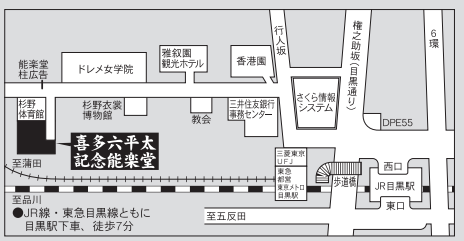


【お問い合せ・お申し込み】

加藤眞悟 ☎・FAX 045（481）8704
・ホームページ http://shingo.from.tv
・携帯Eメール shingo55kato@ezweb.ne.jp
梅若研能会 ☎03（3466）3041

【明友の会会員募集】

会金 一、〇〇〇円／年会費 一、〇〇〇円
特典
・明之会公演の　場料一割引（一会員　三席まで）
・会報や演能、勉強会のお知らせなどお届けします



表紙写真「松風」加藤眞悟　撮影・駒井壮介

能を知る愉しみ

能楽体験講座

能の話、謡と舞の基本の型の体験をします

『経正』を謡ってみよう

日　時■平成22年11月11日(木)、12月9日(木)、1月12日(水)、26日(水)、2月9日(水)、23日(水)の午後2時30分～4時
会　場■加藤宅（横浜市営地下鉄『片倉町』5分）
講　師■加藤眞悟
受講料■10,000円（６回）、教材費 2,100円
●ご予約・お問い合わせ　☎045-481-8704　加藤眞悟